

よえもん

2015年3月 第23号

シリーズ
よえもん

友との再会



今月のことば



上もなく、また
外もなき道のために
身をすつるこそ
身を思ふなれ

書・洲田瑞穂さん
出典・中江藤樹の和歌

藤樹先生が29才のときのことです。
大洲にいたころの学問の同志であった小川寛が
やってきました。
「先生、来ました。とうとう小川村へ大洲の寛が
まいりました。」二人は玄關で手を取り合って、
再会を心から喜び合いました。
藤樹先生にとって、大洲の同志たちのことは、
とても気がかりだったのです。
「先生、ご安心ください。わたしどもは、毎月一回、
先生に習った勉強を続けています。ですが、むずかしい
ところがあるので、先生のところで学びたいと話し合っています。」
藤樹先生は、大洲の同志たちが学問の灯を、ともし
続けていることを知り、涙がでるほど、うれしく思いました。
やがて、大洲から多くの門人が、藤樹先生の教えを
受けに来ました。先生は、どの門人たちにも、心温かく、
熱心に教えました。

「唯一、良知に致る道のためには、私欲や
こだわりを捨て、自らを反省することが、
自分の身になるのだ」という意味です。
藤樹先生は、大洲での豊がなくならしや武士の
身分を捨てて、小川村へ帰ってきました。
家族や村人、学問など、自分にとっての
大切なものを みつけたのでした。



お知らせ

第27回小企画展

「藤樹から松陰へ～江戸の陽明学～」

を開催する予定です。徳川幕府公認の朱子学とは
対照的に、藤樹が取り入れた陽明学は、弾圧されながらも
受け継がれ、その「知行合一」という教えは、ついに
倒幕の志士たちを内側から突き動かしました。
藤樹から幕末の吉田松陰に至る陽明学の系譜
を企画展示します。



近江聖人中江藤樹記念館
高島市安曇川町上小川 TEL・FAX (0740)-32-0330